

MTS Japan Newsletter No.35

2013年12月

~~~~~

|                                                                          |   |
|--------------------------------------------------------------------------|---|
| OCEANS'13 MTS/IEEE San Diego、盛会裡に終了                                      | 1 |
| ○MTS 創立 50 周年 (1963-2013)                                                |   |
| ○日本から初の 10 機関グループ出展で Japan Pavilion                                      |   |
| ○視察団約 50 名参加、スクリップス海洋研究所を視察訪問。現地交流会も開催                                   |   |
| ○OCEANS'14 MTS/IEEE St. John's, Newfoundland に Japan Pavilion 継続出展の方向で協議 |   |
| OCEANS'14 MTS/IEEE Taipei、4 月 7-10 日に開催                                  | 3 |
| MTS Journal、2014 年 5/6 月号で Asia 特集                                       | 3 |
| 【予告】MTS 日本支部創立 25 周年、記念セミナーを来年 2 月 3 日(月)開催へ                             | 3 |

~~~~~

OCEANS '13 MTS/IEEE San Diego、盛会裡に終了

OMTS 創立 50 周年 (1963-2013)

毎年アメリカで開催される OCEANS 国際会議は、今年は西海岸のカリフォルニア州サンディエゴで、9 月 23 日(月)-26 日(木)に開催された。今年のテーマは、*An Ocean in Common*。

なお、主催団体の一つである MTS は創立 50 周年にあたる。レターサイズ横向きの記念冊子 (約 130 ページ) も発行され、会場でも 50 周年記念パーティが開かれた。酒匂支部長も、当時滞米中で、MTS の Founder Member の一人である。

(<http://www.oceans13mtsieeesandiego.org/index.cfm> 参照)



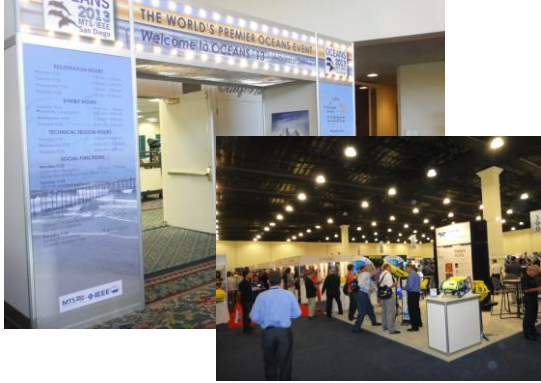
上：スクリーン上に 50 周年記念冊子の表紙
下：パーティでの氷の彫刻と風船のデコレーション



上：MTS の展示ブース
下：会場プールでの ROV Competition

○日本から初の 10 機関グループ出展で Japan Pavilion

今回は、初めて、日本から 6 民間企業・4 団体の計 10 機関がそろってグループ出展することになり、カナダとともに国別の pavilion を形成した。出展したのは、(株)鶴見精機、(株)SGK システム技研、(株)キュー・アイ、(株)ソニック、日油技研工業(株)、JFE アドバンテック(株)、(独)海洋研究開発機構 (JAMSTEC)、(独)港湾空港技術研究所 (PARI)、東大生産技術研究所、TON: テクノオーシャン・ネットワーク。国別 Pavilion となったカナダと日本のブース前には赤じゅうたんが敷かれ、他の個別出展との区別が際立っていた。



上：展示会場のゲートの一つ
下：展示会場の様子



上：Japan Pavilion の展示ブースの一角
下：同グループ出展スペースを示す幟旗

○視察団約 50 名参加、スクリップス海洋研究所を視察訪問。現地交流会も開催

OCEANS 国際会議・展示会に合わせての視察団の編成に関しては、これまでは MTS 日本支部と海洋産業研究会の名前で呼びかけをしてきたが、今回から、TON、IEEE/OES 日本支部、MTS 日本支部の三者連名で編成し、呼びかけを行うこととなったが、今年は、上記のように 10 機関の出展者もあったことから、これまで最高の 49 名の参加となった。

今回の視察団では、まず 9 月 23 日(月)に大型バス 1 台をチャーターして視察訪問 (Technical Visit) を実施した。視察先は、カリフォルニア州立大学サンディエゴ校附属で世界的に有名なスクリップス海洋研究所 (SIO : Scripps Institution of Oceanography、<https://scripps.ucsd.edu/>参照) で、事前の連絡により、国外からの視察対応をしているという Institutional Initiatives 担当 Director の Wendy H. Barker 女史に應對、案内をしていただき、めったに入れないピアも含めて所内の主要施設のガイドツアーを行った。

また、翌日の OCEANS 開催初日 24 日 (火) にはホテル内の一室を借りて、参加者による現地交流会を開催し、賑やかな懇談の輪が広がった。



上：スクリップス海洋研究所の有名なピア遠景
下：ガイドツアーでピアを歩く視察団参加者



上：ガイドツアーの現場の一シーン
下：講堂で事前の解説プレゼンを聞く参加者

○OCEANS'14 St. John's, Newfoundland に Japan Pavilion 継続出展の方向で協議

OCEANS'14 MTS/IEEE は、カナダ大西洋岸 Newfoundland and Labrador の St. Johns で、9月14-19日に“Oceans: Where Challenge Becomes Opportunity”を統一テーマにして開催予定であるが、今年の San Diego に続いて、Japan Pavilion として、グループ出展を継続していく方向で協議が進められることとなった。今年出展の6社4団体はもとより、まだ出展をしていない海洋関連の企業、団体等の積極的参加により、日本の海洋技術を世界にアピールし、プレゼンスを高めていく必要があるので、格段のご協力をお願いしたい。

<http://www.oceans14mtsieestjohns.org/>

OCEANS'14 MTS/IEEE Taipei、4月7-10日開催

OCEANS 国際会議・展示会は、現在、OCEANS 本体 (Oceans America) を毎年秋にアメリカで開催しているが、それと並行して、春に、偶数年には Oceans Europe を、奇数年には Oceans Asia/Pacific を開催している。今年は奇数年なので、Oceans Asia/Pacific として、4月7-10日に台湾の台北で、OCEANS'14 MTS/IEEE Taipei として開催される。

なお、Plenary Session では、4人の基調講演者のうち、日本から浦環・九州工業大教授および高木健・東大教授が発表予定である。詳細は下記の URL を参照願いたい。

<http://www.oceans14mtsieetaipei.org/>

MTS Journal、2014年5/6月号で Asia 特集

海洋に関する科学技術や産業、政策など幅広い Qualified Journal として知られる MTS Journal では、May/June 2014 号を“MARINE TECHNOLOGY FROM ASIA”と題して特集を組む予定となっている。JAMSTEC の Dhugal Lindsey 氏らをゲスト・エディターとして準備されているもので、論文〆切が12月20日になっている。すでに10数編の投稿が寄せられているが、日本からはまだわずかしかない状況にあるので、〆切が迫っているものの、ぜひ、多くの方から投稿をお願いしたい。

【予告】MTS 日本支部創立25周年、記念セミナーを来年2月3日(月)開催へ

別掲記事のように、今年は MTS の創立50周年だが、北米大陸以外の初の支部として日本支部が設立されたのが1988年で、今年は創立25周年。創立20周年では、晴海ふ頭に係留中の白鳳丸の船上で記念セミナーを開催したが、今回は来年2月3日(月)に開催予定で、プログラム等が固まり次第、案内申し上げますので多数の参加をお願いしたい。

MTS では、アメリカにおける海洋科学技術、政策産業に関する最新情報や研究助成金募集案内など非常に有用な情報を提供しており、OCEANS 国際会議の参加登録料も会員価格になります。是非、入会をお願いいたします。会員の方は更新をお願いいたします。

MTS 本部の website <https://www.mtsociety.org/home.aspx>

MTS 会員登録関係 <https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx>

MTS 日本支部事務局

(c/o(一社)海洋産業研究会、Tel : 03-3581-8777、e-mail アドレス : mts@rioe.or.jp)
